

公開講座の内容

「戊辰戦争における欧米列強の局外中立」 野村興兒（至誠館大学学長）

講座の狙い	日本近代黎明期の欧米列強の対日政策と列強内の力関係の変遷を明らかにし、我が国の近代化への影響を明らかにする。
講座の概要	東アジアへの進出は、英・蘭・仏が中心となり、一方ロシアは沿海州を中心とした南下政策をとるなか、突如として米がペリー艦隊を派遣し、和親・通商の各条約を調印し、続いて同趣旨の条約を4カ国とも締結（安政の5カ国条約）。英は朝廷や薩長の討幕派を援助し、仏は幕府を支持する立場をとり、覇を競うこととなるものの、激化する攘夷運動の対抗上、横浜に両軍を駐留させる。
メッセージ	歴史を学ぶことの意義は「過去を通じて未来を学べる」ことにある。「日本の歴史」は「世界の歴史」を学ばねば、十分な理解を得られない。

「ペリー来航と政治変動」 三宅紹宣（広島大学名誉教授）

講座の狙い	幕末の変動の画期となるペリー来航とそのことによって発生する政治変動の実態について明らかにし、明治維新を理解する出発点とする。
講座の概要	1 ペリー来航と対外的危機 ①ペリー来航、②ペリー来航の背景、③民衆の対外的危機、④日米和親条約・日米修好通商条約 2 開国をめぐる政争と安政の大獄 ①開国論と攘夷論の性格、②徳川家定の後継者をめぐる政争、③安政の大獄 3 吉田松陰と尊王攘夷運動 ① 松陰の生涯と世界認識、②松下村塾の教育、③工学教育論
メッセージ	吉田松陰の尊王攘夷運動について、単純な排外主義ではなかったことを正確に理解し、工学教育論についても触れたい。